

株式会社平野ロジスティクス グローバルスタンダードのGDP準拠で 医薬品輸送を管理

国際航空貨物輸送業務などを手がける平野ロジスティクスは医薬品輸送に特化し、グローバルレベルのGDPガイドラインに基づいた機能を装備した専用車両を現場に投入するとともに、品質マニュアルを含む文書体系を確立し、ドライバーへの教育訓練を徹底させている。同社関西支店の西日本地区担当営業部長兼関西支店長の田中基康氏は「外資系航空フォワーダーのGDP対応への要求は非常に厳しい。それに対応し続けたことで、今では「医薬品の国内輸送は平野」と言っていただけになった」と明かす。

温度離脱の機会を極力排除へ

関西支店は関西国際空港に隣接するりんくう国際物流センター内にあり、航空貨物をメインとする業務を行っている。関西国際空港には医薬品輸送の高品質化に取り組む目的で医薬品専用共同定温庫「KIX Medica」が設置されており、同社では医薬品専用大型車「Medica号」およびGDP対応の面からさらに改良させた大型空調車2台も新たに導入し、医薬品輸送にあたっている。

「医薬品原薬の国際航空貨物の取り扱いにおいてフォワーダーから厳格な温度管理を求められたことをきっかけに約5年前からハード面だけでなく、SOPの策定や教育訓練などに本腰を入れて対応を始めた。当時はGDPという言葉は知られていなかったが、外資系航空フォワーダーからグローバルではGDPが必須、医薬品を輸送するならば勉強してほしいと言われたことから、専用車の導入のほか英語のGDPガイドランスを翻訳して教育資料とするなど、他社に先駆けてGDPに取り組んだ」と支店長代理の西端純一氏は振り返る。

同社はまず10t医薬品空調車であるMedica号に温度コントローラ、温度記録装置を設置、-25℃～25℃対応とし、万が一温度が離脱した場合に警告する警報アラームを搭載。またジョルダールという、パレットに載せた商品



▲田中基康氏（右）、西端純一氏（左）。さまざまなGDPに関する手順書を整備している。

を効率的に移動させるための装置をトラックの床下に配し、搬入時間を短縮させることで温度離脱を回避させる仕様とした。また、2019年6月に導入した新車両にはMedica号で培った経験を活かし、新型のエアジョルダールを採用、さらに空調を均一に循環させるためにトラック後部にサーキュレーターを設置させたり、荷物の大きさに応じて仕切り板をつけて温度管理をしている。また、全長945cm×全幅233cm×全高250cmの貨物室には温度管理が可能な特殊コンテナごとの搭載が可能となっている。

「倉庫へのトラックドック付け時に温度離脱が起きやすいので、作業を手早く行いたいという製薬企業様のご要望に応えるため、さまざまな機能をバージョンアップさせた。また、温度マッピングに関して、新基準に移行して対応していくことが決定している」（田中氏）。さらに偽薬混入防止やテロ対策のためにシリアル番号を付



▲GDP対応の面から改良した大型空調車

けたセキュリティバンドも採用している。

またソフト面では、「GDP品質協定書」「医薬品輸送に関する手順書」「医薬品輸送車両温度管理」「医薬品輸送委託先管理」「医薬品輸送教育訓練」「空調車清掃に関する手順」の6部から構成される文書類を用意し、庫内温度マッピングやデータロガーのバリデーション等を的確に行うほか、ドライバーへの教育訓練を行い、その記録を残している。

「教育訓練後にはテストを行い、80点以上で合格、ま

ちがった問題は再教育している」と西端氏。

さらなる高品質輸送を提供

同社では神戸税関第一号となる特定保税運送者の認証（AEO）を取得しており、簡易な税関手続きを行うことが認められている。また、今後はIATA（国際航空運送協会）が策定したCEIV Pharmaという医薬品航空輸送の品質認証プログラムの輸送部門での取得も視野に入れているという。

「わが社は保税のノウハウもあり、そしてセキュリティについても医薬品の輸送に落とし込んでいる。フォワーダーからの厳しい世界基準への要求のほか、毎年5～10の製薬企業様の監査時にいろいろな指摘をいただき、それらに確実に対応してきたことが評価され、「輸送業者でここまで管理できているのか」と驚かれる。しかし、今後ともさらなる品質向上に取り組んでいきたい」（田中氏）。

PTJ 編集長が厳選した じほう書籍購入はPTJ オンラインから

PTJ オンライン



検索

または



<https://ptjbook.jiho.co.jp/info/>

